

報 道 資 料

発表年月日	平成31年3月5日
担当部署名	奈良県福祉医療部 医療政策局疾病対策課
係・担当者	感染症係 井久保・馬庭
連絡先	0742-27-8612 (内線 3133・3135)

県内における麻しん（はしか）患者数の増加について

県内で麻しんの患者数が例年より多く発生していますので広く注意喚起をします。

なお、平成31年3月2日、中和保健所管内の医療機関から麻しんの発生届があり、保健所で患者の疫学調査を進めた結果、不特定多数の方に接触している可能性があることがわかりましたので、対象施設を利用した方は健康にご留意下さい。

1 国内及び県内における患者発生状況

県内では、4名の麻しん届出があり、過去10年間で最も多くなっています。

年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
奈良県（人）	3	2	0	0	1	1	3	1	0	4 (3/5 現在)
全国（人）	447	439	283	229	462	35	165	186	279	258 (2/24 現在)

2 患者の概要

30歳代 女性 中和保健所管内在住 海外渡航歴あり（ミャンマー）

主な症状 発熱・咳・発疹・鼻汁

発症日 平成31年2月25日（発熱）

診断日 平成31年3月 2日

3 患者が利用した施設

患者が利用し、不特定多数の方と接触した可能性のある施設

利用日	施設名	所在地
3月2日（土） 17:00～19:40	奈良県立医科大学附属病院	奈良県橿原市四条町840番地

※3月2日（土）17:00～21:40ごろまでに上記施設のA棟救急患者搬送用エレベーターを利用された方及びA棟7階北病棟へお見舞いに来られた方は、3月23日（土）まで健康にご注意ください。

もし麻しんを疑う症状が現れた場合は、事前に医療機関に連絡の上、速やかに受診してください。

※なお、上記以外に、橿原市内の1病院、3診療所、2薬局を利用されていますが、接触者については把握し、各施設から健康観察について連絡しています。

●現在までに、上記施設については、職員等からの発病はなく、同施設において感染が持続しているという事実はありません。又、外来患者や職員の健康観察及び院内感染対策の徹底等を保健所が指導しています。

●ウイルスは環境中では2時間までで死滅します。

報道機関各位におかれましては、感染症法の精神に基づき、患者及び患者家族等について、本人等が特定されることがないように、また、施設に対する風評被害がないよう格段のご配慮をお願いします。

4 県民の皆様へ

○麻しんは感染すると約10日後に症状（発熱・咳・鼻水・目の充血・発疹等）が現れます。症状が現れた場合は、必ず事前に医療機関へ電話で連絡し、麻しんの疑いがあることを伝え、医療機関の指示に沿って受診してください。なお、受診の際は周囲への感染を防ぐためにもマスクを着用し、公共交通機関の利用を可能な限り避けてください。

○麻しんの感染予防には予防接種が有効です。予防接種を1回も受けていない乳児や妊婦が発症すると重症化や流産する危険があります。定期の予防接種は1歳児と就学前の幼児（年長児）が対象です。対象者は早めに受けてください。

5 医療機関の皆様へ

○県内で麻しん患者が増加していることより、発熱や発疹を呈する患者が受診した際は、予防接種歴、麻しん患者との接触歴や海外渡航歴など、麻しんを意識した診療をお願いします。

○患者（疑い含む）については、麻しんが否定されるまで個室管理を行う等、麻しんの感染力の強さを踏まえた院内感染対策を実施してください。

○臨床症状から麻しんと診断した場合には速やかに保健所へ届出してください。

麻しん（はしか）とは

① 症状

感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3日発熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。死亡する割合は、先進国であっても1000人に1人と言われています。

② 感染経路など

麻しんは、麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症として知られています。

麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、その感染力は非常に強いと言われています。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

③ 潜伏期間

約10～12日間